

**「本県を巡る社会経済状況の変化に関する県民意識調査委託業務」
に関する質問・回答**

	質問	回答
【募集要項】 8 提案の審査・選定等		
1	プレゼンテーションは対面・オンラインのどちらでの実施か。	愛知県庁本庁舎等を会場として、対面での実施を予定している。なお、詳細は企画提案書を提出者あてに4月14（金）までにお知らせする。
2	プレゼンテーションの参加可能人数と持ち時間はどのようなか。	参加人数については、最大4人程度を想定している。 プレゼンテーションの持ち時間は、質疑応答の時間を含め20～30分程度を想定している。 なお、詳細は企画提案書を提出された方あてに4月14（金）までにお知らせする。
【仕様書】 3 業務内容		
3	インターネット調査とは、登録モニターを対象としたアンケート調査を想定しているか。	お見込みのとおり。
4	県民意識の変化を調査で捉えるためには、過去との比較が必要であるが、今回の調査ではできず、正確に変化を捉えることができないと思うが、いかがか。	今回の調査は県民の主観的な意識の調査を目的とするため、過去との正確な比較ができなくてもやむを得ないと考えている。 ただし、もし比較する方法があれば提案いただくことは妨げない。
5	専門家へのヒアリングで専門家へ支払う謝金の単価は定められているか。	特に定めていない。
6	事前に県で打診している専門家はいるか。提案書では、具体的な専門家の個人名を挙げるべきか。	事前に決めている専門家はいない。企画提案のなかでは、それぞれのテーマについて、具体的な専門家の名前を挙げてもらったほうが判断がしやすいと考えている。
7	専門家へのヒアリングの人数の想定はあるか。	2人以上を想定している。
8	有識者のヒアリングの際、県の施策への提案ももらう必要があるか。	本調査の目的としては、県民の意識とあいちビジョン2030策定時の施策の方向性のズレを調査するものであるため、施策の提案は必須ではないが、否定するものではない。
10	ヒアリングの専門家について、どのような分野を考えているか。	特定の分野について想定はない。結果に対して、中立的な意見を求めることができれば、分野は問わない。

11	ヒアリングについて、専門家に対してアンケート結果の評価・検証のみでなく、結果を掘り下げる分析をしてもらうことを想定しているか。	仕様書上想定はないが、提案していただくことは否定しない。 考えてがあれば、独自提案として提案していただきたい。
【仕様書】 4 業務のスケジュール		
12	スケジュールについて、調査開始は4月実施か、7月実施のどちらか。	委託調査としては4月下旬に着手し、アンケート調査を7月に実施してもらうことを想定している。
13	中間報告から報告書提出までの期間が一般的に考えると長いと感じるが校正などのやり取りが頻繁に発生するなど、何らかの課題があるのか。	中間報告では、アンケート結果の単純集計を提出していただく予定である。 一方で、最終報告書では、クロス集計等の分析を行う必要があるため、その期間を考慮している。
【仕様書】 5 納入成果品		
14	報告書に概要版は含まれるのか。別途作成する場合、ページ数は提案書に記載するのか。	概要版は別途作成していただく。ページ数は企画提案の評価の対象にはならないため、提案書への記載は必須ではない。
15	進捗状況の確認は具体的にどのように行うか。	頻度や手法については、事業者が決まってから、県と相談していただきたい。 なお、Web等による方法も可能であり、必ずしも対面による報告・打ち合わせを求めものではないと考えている。
16	中間報告のグラフデータはMSエクセルでよいか。	MSエクセルでよい。
17	報告書のレイアウトは縦・横のどちらか。	縦である。
18	概要版と報告書本冊の違いはなにか。	仕様書にあるとおり、報告書本冊は100ページ程度のもので、概要版はその内容をまとめたダイジェスト版のようなものを想定している。
【企画提案書作成要領】 1 提出書類		
19	見積金額は企画提案の評価対象となるか。	見積総額自体は評価の対象とならない。 ただし、見積額の内訳は形式的に確認し、過大と思われる見積項目がある場合は、それが正しい業務積算となっていないとマイナスの判断となることはあると思っている。